

山森二郎先生を偲んで

高津高等学校五期 藤本 勇

私たら五期生が高津高等学校に入学したのは昭和二十五年で、丁度朝鮮戦争が始まった年でした。山森先生は高津中学から大阪高等学校を経て京都大学を卒業され、新聞社に勤務されていたと聞き及んでいます。先生が赤狩りで新聞社を退社され、母校の教壇に立たれるようになったのは、私の入学する一年前だったと思います。

先生は、高津高校では社会科で生徒を指導されていました。授業は少しユニークな授業でした。生徒を教壇に立たせて先生は生徒の席に座り、一つのテーマを生徒同士で議論を交わさせるやり方をとられました。そのため教壇に立つ生徒は必至で勉強をしたものでした。

私が現役の際の山岳部の顧問は、国語科の加藤栄一先生でした。しかし山の話をして、社会科の先生の所にも出入りしていました。先生が山に興味を抱かれたのは、その影響かと思っております。私が高津高校を卒業してから山岳部の顧問の先生が山森先生にバトンタッチされ、山岳部の面倒を見ていただくようになりました。先生は授業中によく山の話とされてきました。黒板のチョーク置き場を利用して岩場のトラバースを実演され、生徒に山登りの興味を植え付け、新入部員の獲得に強い力を貸してくださいました。お陰で山岳部員の数も増え、高津高校山岳部の黄金期を迎えることができました。

冬山合宿でハケ岳に行った時、女子部員に盲腸の疑いがあることが判り、先生と一緒に早期に山を降りたことがありました。大阪まで一息に汽車で帰るところを、何故か途中で下車しました。その夜泊まったところは先生の親戚、いや実家だったので。ようか……その家は岐阜駅近くの元赤線にある建物の様でした。女子部員と一晩、その建物の部屋に泊まったのは今でも不思議

議に思っています。

先生ご夫妻は、私達の結婚で媒酌人を引き受けて下さいました。確か媒酌人の第一号だったと聞いています。続いて山岳部員だった山本正行君と磯貝輝子さんの媒酌人もしていただきました。

毎年、賀状の交換をさせていただいておりましたが、ここ数年は先生からのご返事も途絶えておりました。丁度私の兄が枚方上の町に住んでおりましたので、兄に先生のご様子を尋ねてくるようにと依頼しました。兄からは「山森先生は名古屋の方に引越されて、住まわっていた家は空き家になっていた」との連絡を受けました。

先生の奥方が認知症を患っておられるとお聞きしました。晩年の先生は奥方の介護に明け暮れて大変だったと推察されます。奥方はどうなされておられるのか詳しいことは判りませんが、

御子息がそばにいられるので安心しております。

今、先生とも御縁のある上六で「山森先生に感謝し、思ふ会」と、母校の山岳部員だった仲間と一緒に開いております。みんな山森先生、いや二郎さんの思い出話に花が咲くことでしょう。あと何年かすれば、私どもも彼岸の地からお迎えが参ります。その時は道案内をお願いいたします。

平成二十六年三月二十八日

合掌